



今月のことば 令和8年(2026)9月 <No.241>

「このたび」で終わる

住職は今年、56歳になりました。若いころには感じなかった体の不調など、先輩方からよく聞いていた症状が、自分にも現れるようになってきました。

「もういい歳やけんね。好きなことをして生きたらええんよ…」

そんななか、あるお参りの帰りぎわに言われたひとことです。深い話をしていたわけではありません。私も「ほんとですね」と笑って返しました。けれど、その言葉がなかなか消えませんでした。



「好きなことを、私はいつ、どうやって選んだのだろう？」と考え始めてしまったのです。世界中を見て、あらゆる生き方を試した上で「これが私の好きなことだ」と決めたわけではありません。たまたま出会ったもの、たまたま手の届いたもの、そこから選んでいるだけです。

その「たまたま」を大切にしていけば、人生はそれで良いのでしょうか…？ 考えても考えても答えの出ない問いに、私は親鸞聖人のことばに尋ねることにしました。

五十六億七千万 弥勒菩薩はとしをへん

まことの信心うるひとは このたびさとりをひらくべし

弥勒菩薩さまが仏と成られるのは、五十六億七千万年後と言われています。

しかし阿弥陀如来の信心をいただいた人は、**このたびの命をまっとうしたのちに、**
ただちに浄土に生まれ、仏と成る(さとりを得る)ことができるのです。

『正像末和讃』より(住職意訳)



親鸞聖人は、「このたび」と言われました。「このたび」とは、「今回」です。今回ということは、「前があった」ということです。

私たちは、迷いの命を数えきれないほど生き、数えきれないほど死に、そのたびに何かを好きになっては、手放してきました。仏教でいう、「流転輪廻(るてりんね)」です。

聖人は、その繰り返しが**「このたびで終わる」**と言います。たまたま人として生まれ、たまたま仏法を聞く身となり、たまたま「南無阿弥陀仏」に出遇った…。実は、この「たまたま」は、数えきれない流転の中でも、**「今回だけ」**ということを意味しています。

あの日「好きなことをして生きんと」と笑ってくださった方も、私も、同じ**「今回だけ」**の中にいます。お仏壇の前に座ること、ふと口からこぼれる南無阿弥陀仏…。どれも当たり前のように、五十六億七千万年ぶんの重みを持っているのです。

好きなことも大切に、お念仏と共に生きてまいりましょう。



慧日山 真光寺